

この度は、イーグル模型取り扱いのサイクロンをお買い求め頂きまして誠にありがとうございました。
この日本語説明書と英文マニュアルをよくお読み頂いた上でお使い下さい。
(以下、文中の参照用の図は、英文のマニュアルをご覧下さい。)

サイクロンはオール・デジタル・マイクロプロセッサをベースとするマイクロ・コンポーネンツを使用しベストセレクトを可能にした超小型軽量のスーパーアンプです。

新たな3つの装備+α

- 1.最高級チップ作用による業界トップクラスの最低レベルのON-抵抗
- 2.ワンタッチボタンに内蔵されたON-OFFスイッチ
- 3.世界初チェンジャブル・レシーバーワイヤーはオプションの長さの違うものに簡単に交換できます。
(面倒なハンダ付け作業が不要となりました。)

α：モーター用ノイズキラーコンデンザー内蔵

TCは世界大会時のデーターをファイル1、一般的なモディファイド・クラスはファイル2、ストック・クラスはファイル3にセットされています。

その他のチップにも最新最良パーツを用いたスーパーアンプです。もちろんピットウイザードによってデーターを自由自在に書き換え、保存、呼び出しが可能です。

☆使用上の注意

- ◎アンプ（サイクロン）は水や水分をきらいします。故障の原因となりますので気を付けて下さい。
- ◎バッテリーの接続極性には十分お気を付け下さい。
- ◎FETとBECのヒートシンク部分でのショートにはお気を付け下さい。
- ◎使用時には、必ず送信機側よりスイッチを入れ次にアンプを入れます。切る時は逆にアンプから先に切ります。
- ◎使用時又は使用後はFETとBECのヒートシンク部分が熱を持ちますのでお気を付け下さい。
- ◎配線はショートをさける為にFETとBECのヒートシンクの上を通さないようにして下さい。

◇特徴

- ◎最大高周波数23,400Hz
- ◎256の独立ステップによって前後進がよりスムーズなコントロール
- ◎アジャスタブル・ブレーキによって最小ブレーキ値の可変可能
- ◎ワンタッチセット・ボタンによって高周波数(パワー特性)が3段階に変化
- ◎ノバック・ピットウイザードを使用することによって無数の組み合わせにパワー特性がセットできます。
- ◎低電圧コントロール回路は2Vまで制御可能
- ◎最高級のハイパーFETを使用しスムーズで発熱しにくい制御方法
この方法によってモーターからの電波障害をより減らす事ができるようになりました。
- ◎受信優先回路はバッテリーの電圧が負荷によって一時的に低下した場合でも受信器とサーボへの送電を維持します。
- ◎大容量BECは高出力受信器や高出力サーボに十分な送電を行います。
- ◎通電性のよいソルダーポストはどのサイズのコードも簡単に取り付けられます。

◇付属品

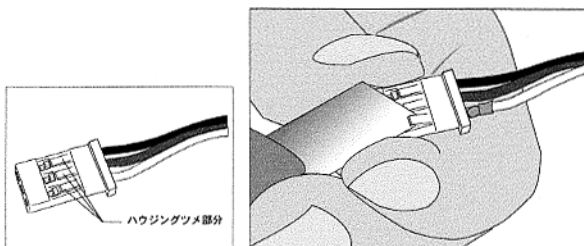
パワーキャパシター、ショッキダイオード、パワーワイヤー、インプットハーネス。

◇受信障害

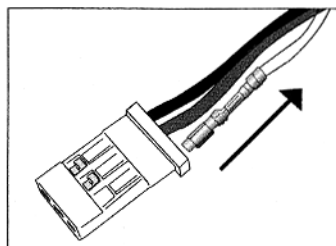
- §受信器のアンテナは短く切らずにアンテナポスト又はアンテナパイプで正しく取り付けます。
 - §モーターコミュニケーターやブラシのコンディションが悪くても同じようにノイズの原因となります。
- STEP.1 《図.1-3》

新型サーボワイヤーのコネクター・ピンの交換方法

ワイヤーの引き抜き方

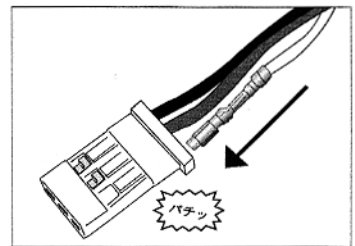


- 1.引き抜きたいワイヤーのハウジングのツメ部分をカッターの刃などを用いて持ち上げます。
(この時、ツメを折らないように注意してください。)



- 2.ツメ部分を持ち上げたままワイヤーを引き抜きます。

ワイヤーの差し込み方



- 3.上図のようにコネクターをしっかりと差し込みます。
(逆接はとても危険です。故障の原因となりますのでよくご確認ください。)

*フタバへはそのまま使用できますが、サンワ又はKOの旧型には極性が現在と違うものがあります。
プロポ側の説明書と共によくご確認ください。

STEP.2 装着方法

- 1) 最適な装着箇所とはパワーワイヤーがTバーやサスペンションなど可動箇所には干渉しない場所のことです。通常、ヒートシンクは必要ありませんが、FETのフィンに風が通る様に装着することで過熱を防ぎ効率のよい送電ができます。
- 2) アンプは両面テープで上記のことに注意して装着して下さい。
- 3) 受信器はアンプ、モーター、パワーワイヤー、バッテリー、サーボなどからなるべく離して下さい。と言っても1/12カーでは限界がありますので、それぞれを積み重ねなければいけません。またアンテナポストと受信器はなるべく近い位置に装着しアンテナを短く切らずに立ち上げて下さい。

STEP.3 接続方法

- 1) サイクロンTC2 & サイクロン2はモーターコンデンサー(ノイズキラー・コンデンサー)がアンプに内蔵されていますので外付けする必要はありません。
- 2) 図4を参考にし、ショックダイオード(1ヶ)の極性に注意しラインの入った方をプラス側に向けてそれぞれをハンダ付けします。
- 3) 図5を参考にしパワーキャパシターを取り付けます。これは、アンプの効率を引き上げるためのものです。パワーキャパシターを取り付けないとアンプが壊れる事もあります。パワーキャパシターには、極性がありますので足の長い方をプラス(赤コード)、短い方をマイナス(黒コード)に付けて下さい。
- 4) セットアップの図を参考にし、パワーワイヤーは、ターミナルに直接ハンダ付けします。RED(赤),BLUE(青),BLK(黒),のサインがケースにありますので極性に気を付けて正しく取り付けして下さい。別売で12GA,14GA,16GA.の3種類のコードがありますので用途に合わせ交換して下さい。この時、高温ハンダは使わないで下さい。
- 5) レシーバーワイヤーをアンプに差し込みます。次に反対側のレシーバーコネクタは、受信器のスロットル・ジャックに差し込んで下さい。
- 6) バッテリーへの接続はアンプの赤コードをバッテリーのプラスへ黒コードをバッテリーのマイナスへつなぎます。ただし、ハンダを付ける時にはターミナルに対して加熱し過ぎに注意してください。
- 7) モーターへの接続はアンプの赤コードをダイレクトにモーターのプラスにつなぎ、(もう一本、赤コードを用いて枝分かれする様に配線しても良いでしょう。)アンプの青コードをダイレクトにモーターのマイナスにつなぎます。
- 8) バッテリーやモーターのコネクタは、高品質で抵抗値の少ないディーンズ又はトップレーシングタイプのものを用いて接続トラブルのないようにします。(逆接やショートはアンプにダメージを与えます。)
 § また、バッテリー側にはメスのコネクタ、アンプのインプット側にはオスのコネクタ、アンプのアウトプット側にはメスのコネクタ、モーター側にはオスのコネクタをそれぞれ取り付けして下さい。

STEP.4 送信機セット

- 1) HIGH ATV又はEPAは最大値にセットします。
- 2) LOW ATV, EPA又はATL最大値にセットします。これを減らすことによってワンタッチセットアップした後でも、ブレーキの強さを減らすことができます。
- 3) エキスポネンシャルは0にします。
- 4) スロットルトリムはミドルポジション。
- 5) 送信機のリバース・スイッチのポジションはどちらでも構いません。
- 6) また送信機の内部で前後進の切れ角割合が調整できる場合も、前進側が70%、ブレーキ側は30%にセットにします。
- 7) 送信機トリガーの前後進の切れ角割合は、前進側が2/3で、ブレーキ側は1/3にセットにします。

STEP.5 アンプのセット方法

- 1) バッテリーをつなぎます。
- 2) 送信機のスイッチをオンにします。そして、アンプのスイッチを一度押してオンにします。
この時、サイクロン側のニュートラル・ポジションが送信機のニュートラルに対してずれていればLEDの赤ランプが点灯しなくても異常ではありません。
- 3-7) 送信機のトリガーをニュートラルポジションにセットしワンタッチセットアップ・ボタンを押し続けます。約3秒後に赤のLEDランプが点灯したら、ボタンを素早くはなします。と同時にトリガーを最高速ポジションにします。緑のLEDが点灯したら、次にトリガーを最大ブレーキポジションにすることで緑のLEDが点滅に変わります。そして、トリガーをはなすと赤のLEDランプ点灯にもどりセットが完了します。
 § この時、始めセットアップ・ボタンを長く押し続けると自動的に緑のLEDが点灯しセットができなくなります。再度やり直して下さい。赤のLEDランプが6回点滅した時(エラーした時)も同様です。
 スイッチをオフにする場合はワンタッチを素早く一度押して下さい。その後、送信機をオフにします。

STEP.6 スロットル特性の選択

- ◇内蔵された特性表
内蔵された3種類の特性

C2	ニュートラル範囲	最小駆動開始値	ブレーキ周波数	前進の周波数	ニュートラルブレーキ
1. 1/10・1/12オンロード	5%	2%	3.90KHz	15.60KHz	OFF
2. 1/10&12ストック	5%	6%	3.90KHz	5.86KHz	OFF
3. 1/10オフロード	5%	4%	5.86KHz	7.80KHz	ON
TC2	ニュートラル範囲	最小駆動開始値	ブレーキ周波数	前進の周波数	ニュートラルブレーキ
1. ツーリング世界戦	5%	2%	3.90KHz	15.60KHz	OFF
2. グリップの良いコース	3%	3%	5.86KHz	11.70KHz	OFF
3. ツーリング・ストック	3%	5%	11.70KHz	7.80KHz	OFF

◇ 選択方法

- 1-6)送信機とアンプのスイッチを入れた状態でワンタッチセットボタンを押し続けます。約3秒後に赤のLEDランプが点灯し、そして次に緑のLEDの点灯に変わります。そしたらボタンをはなします。緑のLEDが消えるとすぐに赤のLEDランプが1～3回点滅します。(ピットウイザードで変換されたデータの場合は4回点滅します。)
- §この点滅の回数が上記、特性表の今、何がセットされているかが簡単に確認できるのです。(1回なら特性と言う様に)そして約3秒後に赤のLEDランプが点灯しニュートラルにもどります。
- もしも、特性の選択を変えたい場合は上記ステップの赤のLEDランプ点滅回数確認後、素早くもう一度ボタンを素早く押し、もしファイル1がセットされているものならファイル2に変更されます。同じ様に連続してボタンを押すことでファイル2ならファイル3にセットされます。

◇別売りのピット・ウイザードにて下記の特性

データーを自由に選択することで無数の組み合わせにパワー特性がセットできます。

- | | |
|--|-----------------------|
| ・ニュートラルポジション | =Neutral Position |
| ・最高速度 | =Full Forward |
| ・最高ブレーキ値 | =Full Brake |
| ・ニュートラルの範囲 | =Dead Band Value |
| ・ニュートラルでのブレーキ値 0-50% | =Brake Blipping Value |
| ・ニュートラルブレーキの周波数 16種類 | =Brake Blip Frequency |
| ・前進側の周波数 16種類 | =Drive PWM Frequency |
| ・ブレーキの周波数 16種類 | =Brake PWM Frequency |
| ・最小駆動開始値 | =Minimum Drive Value |
| ・最低ブレーキ値(サイクロン・ブレーキボリュームによる)0.39-75%
ステップ6の図)をご覧ください。 | =Drag Brake |

☆上記の詳しいセットアップ説明はピット・ウイザードに付属されています。

◇最低ブレーキ値の設定はサイクロンのブレーキ調整ボリュームを使います。

これは最大ブレーキ値を変化されるものではありません。最低ブレーキ値を0.39-75%で設定ができます。

◇サーボの接続

FETサーボ以外は通常どうり接続して下さい。FETサーボの場合はFETサーボ・コネクションの図を参考にサーボに付属されているインダクターをFETサーボのバックアップワイヤーと接続した後バッテリーに直接ハンダ付けします。(取り付け極性につきましてはサーボメーカー様にご確認ください)

◇別電源の使用方法

8CELL(9.6V)以上又は、4CELL(4.8V)の動力用バッテリーを使用する場合はアンプから出ているレシーバーワイヤーの赤コードのみ抜き絶縁します。(この場合アンプからレシーバーへつなぐハウジングには白と黒線のみとなります。)

- 1.) そして、乾電池 入りの電池ボックス又はレシーバー用バッテリーを別電源 (5CELL 6V) として受信器を制御させます。
- 2-3.) この時、受信機のオンオフは別電源 (5CELL 6V) のスイッチを使用します。
- 4.) アンプのオンオフはワンタッチボタンを使用します。

☆その他、ご質問が等ございましたらイーグル・サービスカウンター 0532-61-1554までお気軽にお問い合わせ下さい。

☆修理サービスにつきましては、イーグル・サービスカウンターで行っていますのでお問い合わせ下さい。

〒440-0842

愛知県豊橋市岩屋町62-79

株式会社 イーグル模型

service11@eaglemodel.com 0532-61-1554まで

☆製品保証につきましては、一部アメリカ国内保証と異なりますが、ほぼノバック保証に準じて処理させていただきます。保証依頼の場合はディーラーステッカーが必要になりますので購入後必ずアンプの側面にはっておいて下さい。

☆ディーラーステッカー↓

TC2ボード交換方法

- 1.本体側面ツメの部分にマイナス精密ドライバー等を差し込み、ダメージを与えないようにケース底部を取り外します。
- 2.内部ユニットのブレインボード(基板上部)を垂直に持ち上げ取り外します。
(この時、斜方向に無理な力を加えたりしないでください。連結ピン部分が損傷する可能性があります。)
- 3.交換用ブレインボードを取り付けます。メインボードの連結ピンとブレインボードの差し込み部分とをよく合わせてしっかりと差し込みます。
(ブレインボードとメインボードを連結させる際も無理な力を加えず垂直にはめ込んでください)
- 4.本体ケースをかぶせます。この時、内部ヒートシンクなどの位置を合わせ、正しくもとおりになるように作業を行ってください。